

東日本大震災 10 年

被災地の声

被災者アンケート

岩手・宮城・福島の被災地は土地の造成や、災害公営住宅の整備などハード面の整備が概ね完了し、国は「総仕上げの段階にある」としています。

一方で、その上に暮らす被災者の状況はさまざまです。地域経済は震災の影響をいまだ抜け出せず、地域のつながりをどう復興していくのかも大きな課題として残されたままです。

被災した人たちは10年を前にいま、どう感じているのか。およそ4000人を対象にアンケートを行いました。

回答者 1,805人

宮城県	岩手県	福島県	その他
667人	656人	476人	6人

目 次

■ 「10年」とは何ですか？	2
■ あなたの地域は復興しましたか？	7
■ 思い描いていた復興でしたか？	11
■ 10年間の支援についてどう思いますか？	14
■ 1年後、あなたの地域はどうなっていると思いますか？	19
■ 災害公営住宅の家賃はいま	24
■ 新型コロナの影響は	27
■ 復興カレンダー	33
■ 当時福島県内に住んでいた方への質問	37
■ アンケート回答者の属性	42

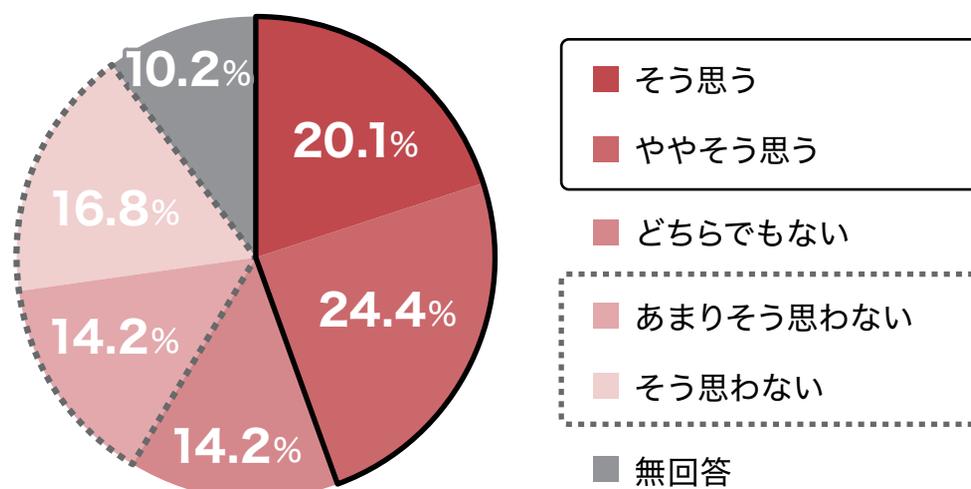
「10年」とは何ですか？

「10年がたつこと」について6つのテーマごとに、そう思うかどうかを聞きました。

Q1 「10年がたつ」 ことについて

「区切り」や「自立のきっかけ」となるかについてです。

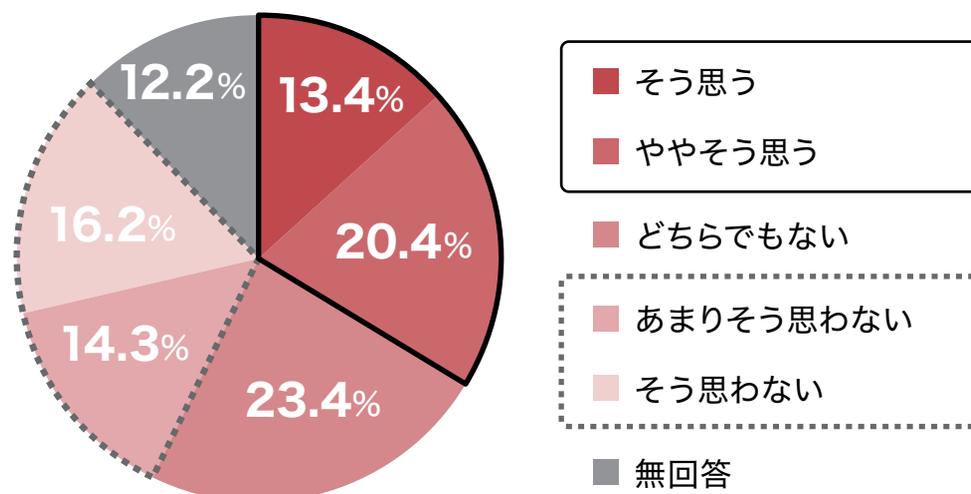
震災の被害を乗り越える区切りとなる



そう思う・ややそう思う **44.5%**

そう思わない・あまりそう思わない **31.0%**

自立のきっかけとなる



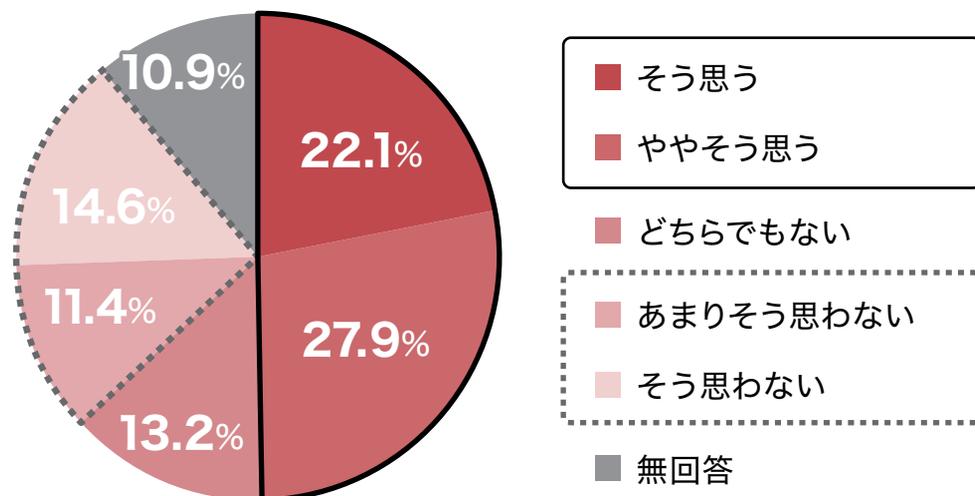
そう思う・ややそう思う **33.8%**

そう思わない・あまりそう思わない **30.5%**

「区切り」や「自立のきっかけ」となると受け止める人が一定程度いる一方で、同じぐらいの人が、そう受け止めておらず復興の状況が二分しているともいえます。また、今も復興の道半ばにある被災者も多く「10年」に必ずしも意味を求めていることも伺えます。

一方で、明確になったのは「10年がたつ」ことへの不安です。被災地への「関心」と「支援」について聞きました。

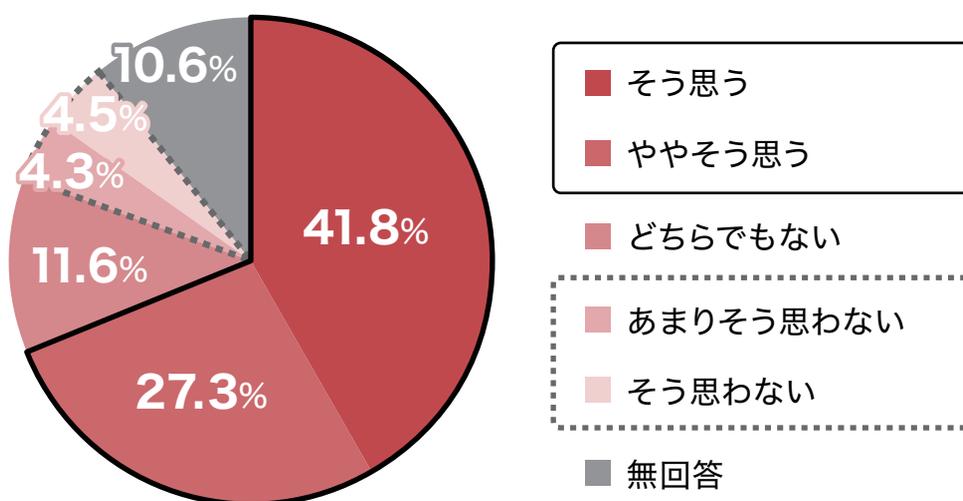
被災地の復興への関心が薄れる



そう思う・ややそう思う ————— **50.0%**

そう思わない・あまりそう思わない ————— **26.0%**

人的・経済的な支援が減る



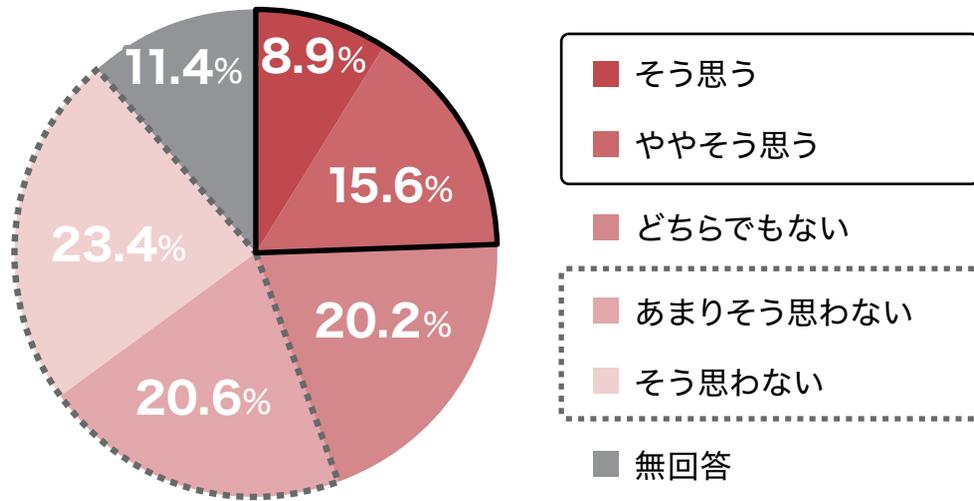
そう思う・ややそう思う **69.1%**

そう思わない・あまりそう思わない **8.8%**

被災者の多くが、関心が薄れ、支援が減少することを懸念しているといえます。被災地では、住まいや道路の再建など目に見える復興は一定程度進んだ一方で、地域のつながりや経済の復興が大きな課題として残っています。10年の課題は、アンケートの別の質問でより詳しく表れているのでご覧下さい。

このほか、「被災地」や「被災者」のイメージは10年がたったとしても、依然として残ると感じている人の割合が多くなりました。
また、「震災の被害」については半数が忘れられるとは「思わない」と回答しました。

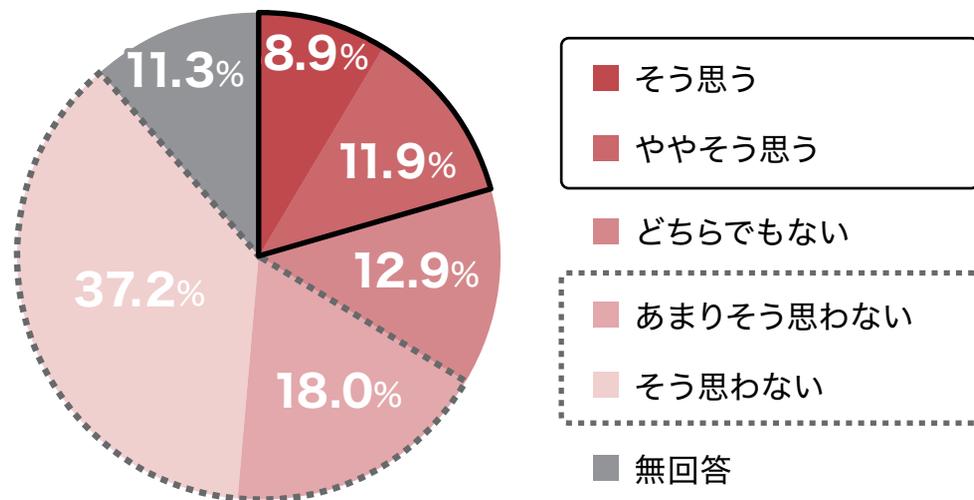
「被災地」「被災者」のイメージから脱却できる



そう思う・ややそう思う **24.5%**

そう思わない・あまりそう思わない **44.0%**

震災の被害が忘れられる



そう思う・ややそう思う **20.8%**

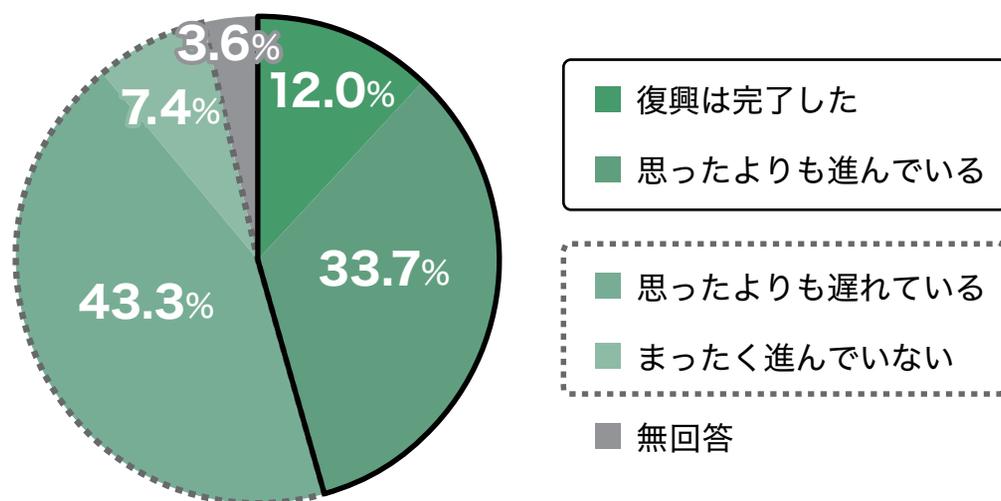
そう思わない・あまりそう思わない **55.2%**

あなたの地域は復興しましたか？

暮らしていた地域の復興状況についてどのように感じているのか。
見えてきたのは復興の二分化ともいえる状況でした。

Q1

「地域の復興状況」について

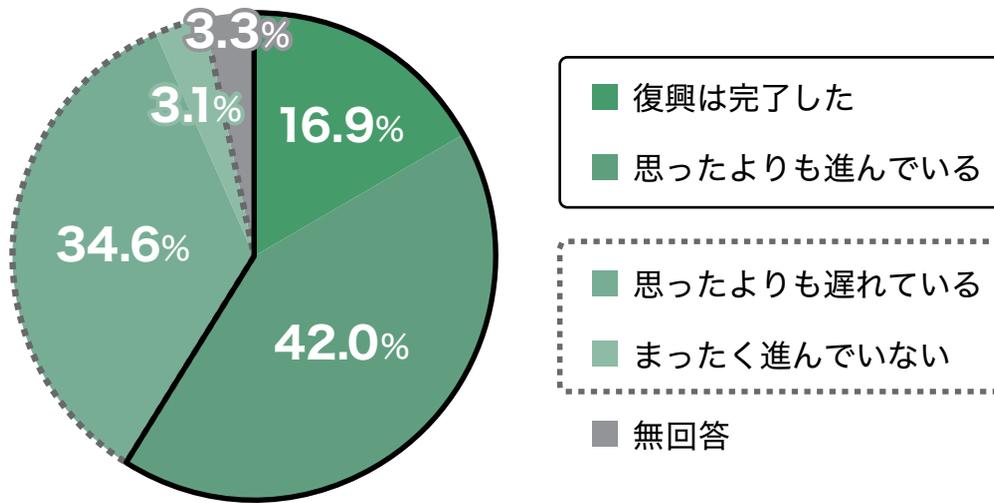


復興は完了した・思ったよりも進んでいる **45.7%**

思ったよりも遅れている・全く進んでいない **50.7%**

地域の復興について、進捗の受け止めが分かれる結果となりました。つまり地域によって復興が進んでいるところと進んでいないところがあるが、この10年で出てきてしまっています。この傾向は、県別にみるとよりはっきりします。

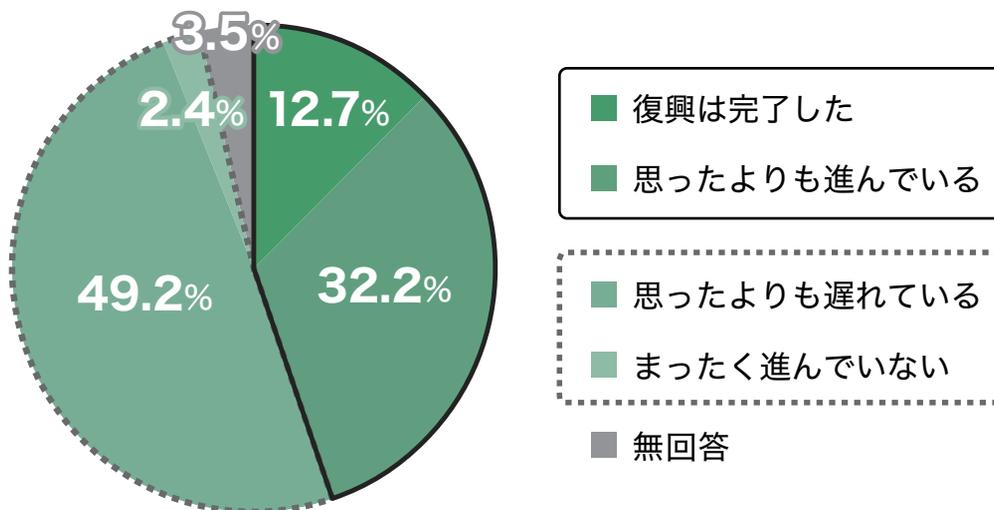
宮城県



復興は完了した・思ったよりも進んでいる **58.9%**

思ったよりも遅れている・全く進んでいない **37.7%**

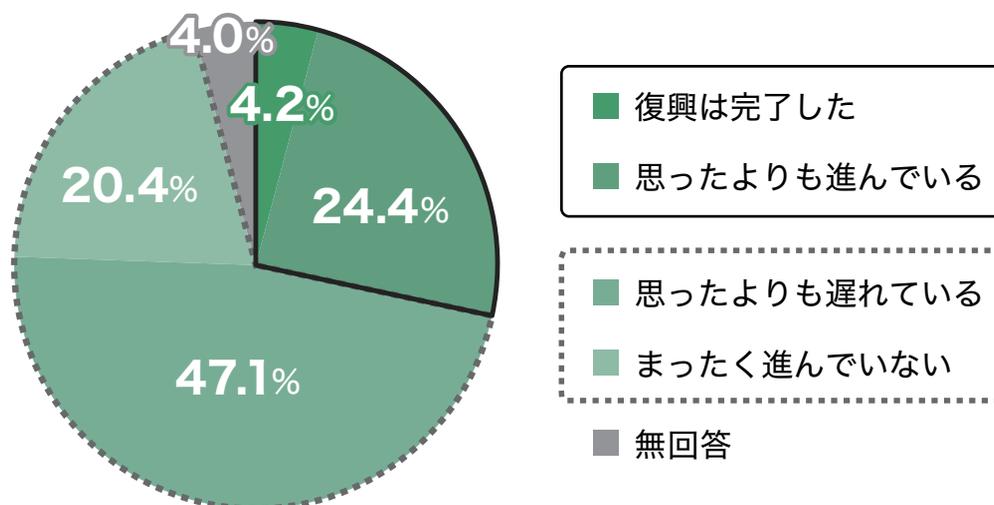
岩手県



復興は完了した・思ったよりも進んでいる **44.9%**

思ったよりも遅れている・全く進んでいない **51.6%**

福島県



復興は完了した・思ったよりも進んでいる **28.6%**

思ったよりも遅れている・全く進んでいない **67.5%**

地域の復興状況への受け止めは、宮城県、岩手県、そして福島県の順に厳しくなっています。福島県では原発事故の影響が今も続き、10年がたとうとする今もふるさとに戻ることが出来ない被災者が多くいます。地域の復興のスタートすらも切れない現状は、年をへるごとに被災者に重くのしかかっているといえます。

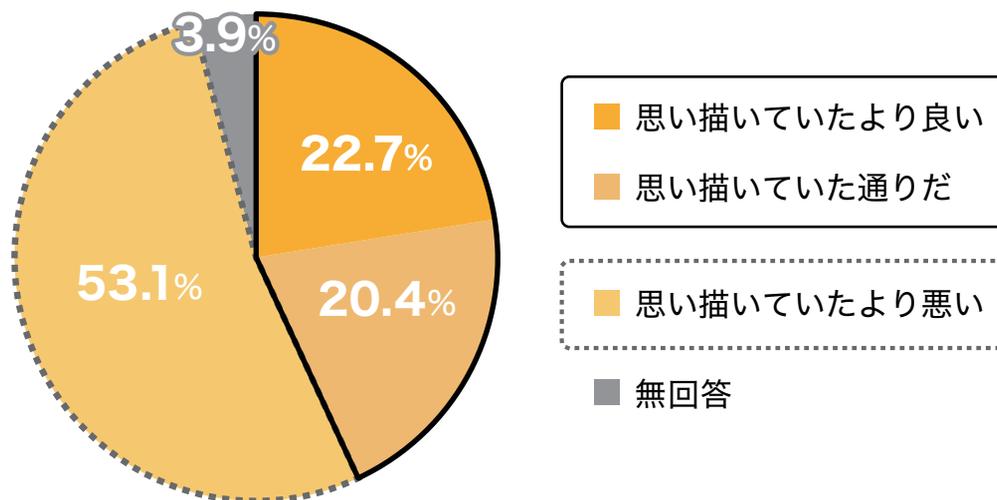
思い描いていた復興でしたか？

当初、思い描いていた復興と比べて今の復興の姿をどう考えるか聞きました。

Q1

当初、あなたが思い描いていた復興と比べて、今の復興の姿をどう考えますか

思い描いていた復興と今の復興の姿について

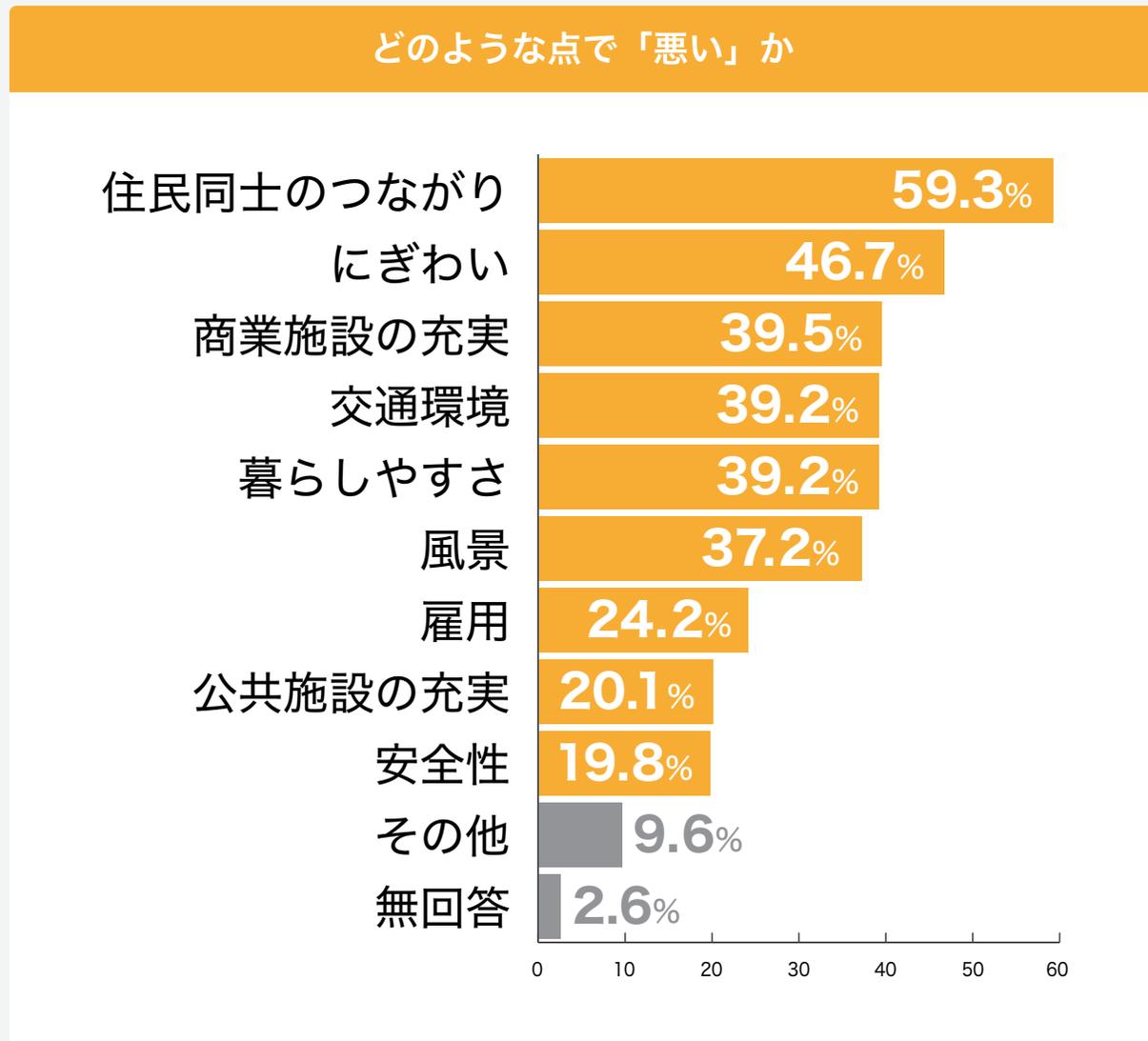


思い描いた通り・良い **43.1%**

思い描いていたより悪い **53.1%**

「思い描いていたより悪い」と答えた人は、去年のアンケート調査の時よりも、4ポイントほど増加しました。この1年で、当初の復興のイメージと現状とのずれがより広がったといえます。また、「思い描いた通り」「思い描いていたより良い」と回答した被災者も多く、復興イメージにおいても、受け止めが二分していると見られます。

つぎに、どのような点で「悪い」と思ったのかを聞きました。



「つながり」や「にぎわい」、つまり、コミュニティーや地域経済の復興において特に多くの方が、思い描いていたより「悪い」と感じ、課題となっていることがわかりました。一方、安全性や公共施設の充実といった、建物を中心とした目に見える復興に関しては、復興のイメージとのずれは比較的小さいとみられます。

10年間の支援についてどう思いますか？

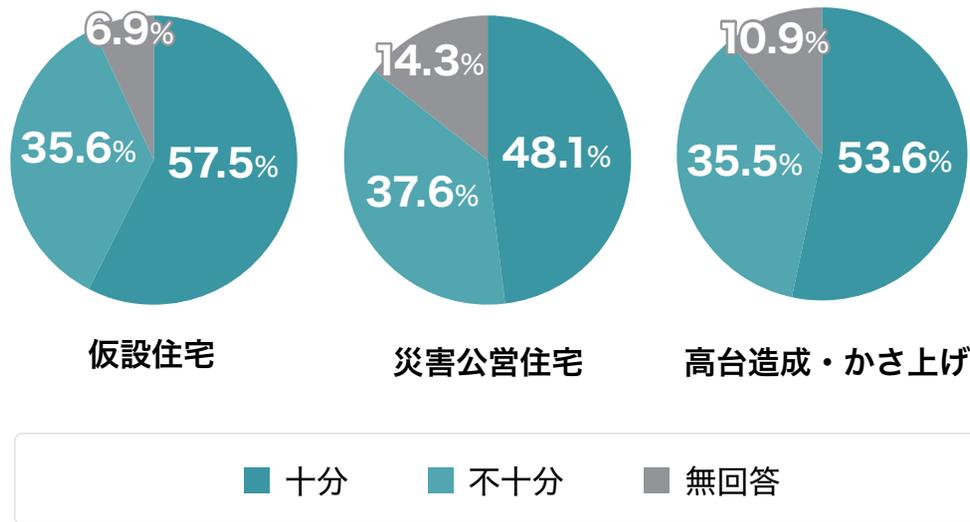
この10年間に実施された、行政やNPOなどによる支援に対する評価を聞きました。

Q1

住宅や宅地造成に関する支援への評価

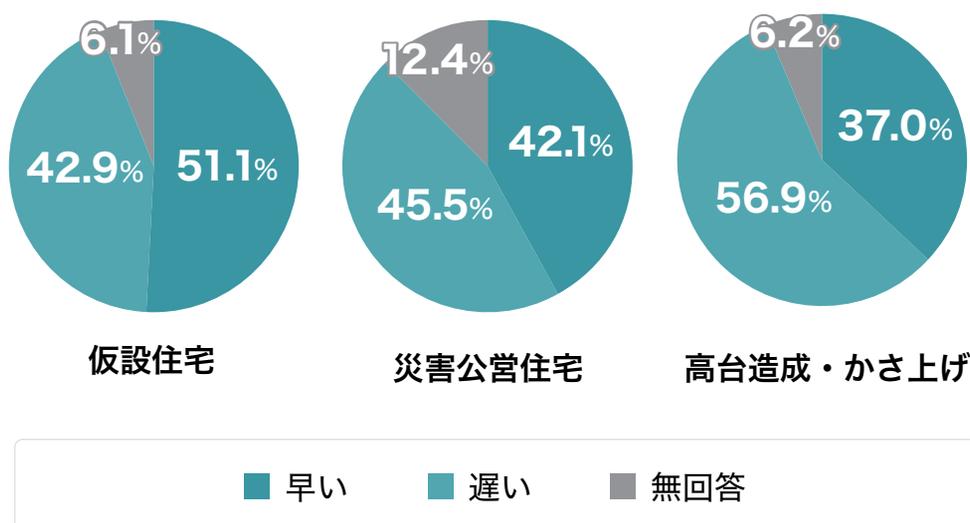
「仮設住宅」「災害公営住宅」「高台造成・かさ上げ」といった支援の「手厚さ」について聞きました。

支援の「手厚さ」



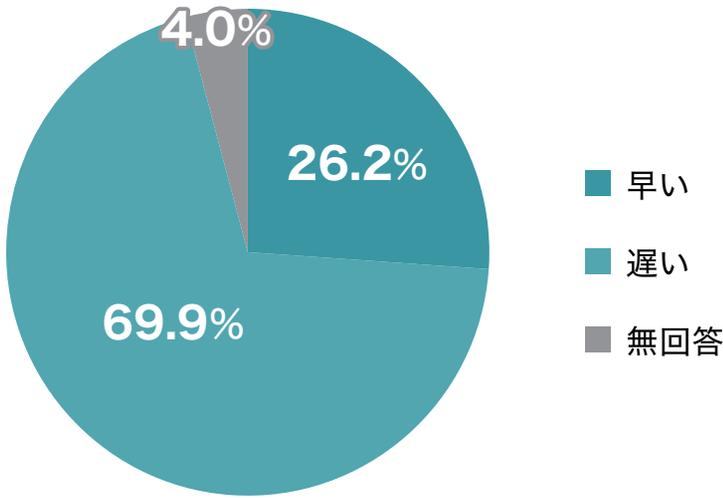
いずれの場合も支援は「十分」が「不十分」を上回りました。一方で、「スピード」については、評価が分かれました。

スピード



「仮設住宅」では「早い」が多く、「災害公営住宅」では「遅い」が多くなりました。差がはっきりと出たのは「高台造成・かさ上げ」で、「遅い」が「早い」を大きく上回りました。

高台造成・かさ上げ（岩手県）



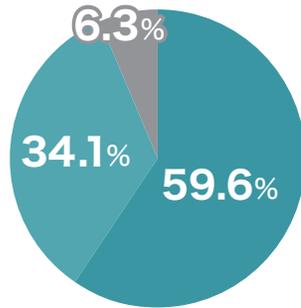
さらに、県別で見ると「岩手県」では「遅い」という評価がおよそ7割に達しています。
岩手県では高台の造成に時間がかかり、東北3県で最後に造成が完了した場所も岩手県陸前高田市でした。

Q2

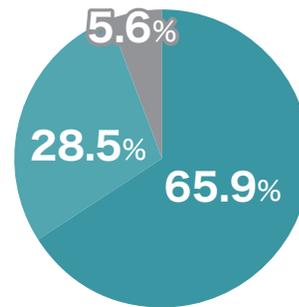
金銭的な支援についての評価

「グループ補助金」「被災者生活再建支援金」「医療費や税の減免」といった金銭的な支援についても「手厚さ」と「スピード」の評価を聞きました。

グループ補助金



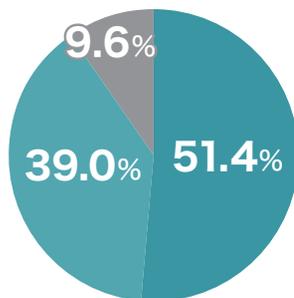
手厚さ



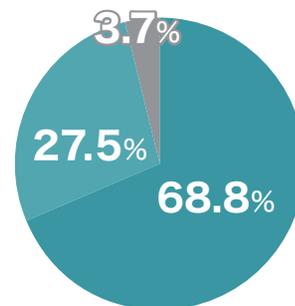
スピード



被災者生活再建支援金



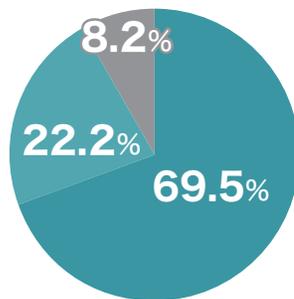
手厚さ



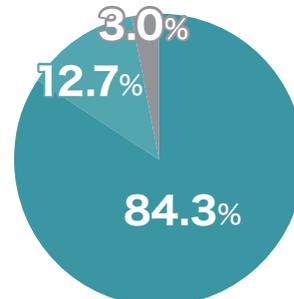
スピード



医療費・税減免



手厚さ



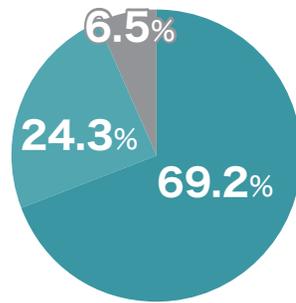
スピード



いずれも「手厚さ」は「十分」、「スピード」も「早い」という評価が過半数となりました。

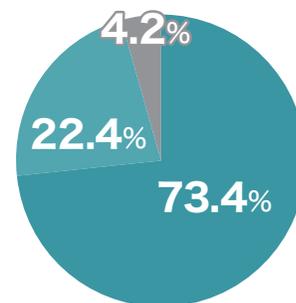
一方で、アンケートでは、震災から10年が経過したあとも、継続した支援を求める声や、今後も十分な支援が受けられるのかを不安視する声が寄せられました。中でも「医療費の減免」については、「助かった」という声の一方で、期間の延長を求める声が多く寄せられました。

Q3 「見守り活動」などの支援への評価



手厚さ

- 十分
- 不十分
- 無回答



スピード

- 早い
- 遅い
- 無回答

この10年間の行政やNPOの支援についても聞きました。仮設住宅や災害公営住宅などで孤立を防ぐための「見守り活動」といった支援を受けた人にたずねると、「手厚さ」と「スピード」ともに7割が高く評価をしていました。被災者からは今後も継続した支援を求める声が寄せられました。

1年後、あなたの地域はどうなっていると思いますか？

1年後、あなたの地域はどうなっていると思いますか？

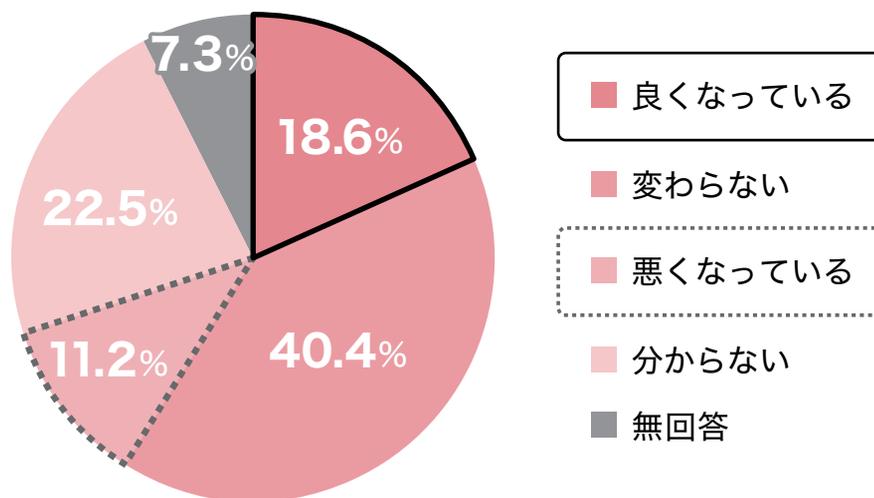
被災地のこれからについて、被災者はどのように感じているのでしょうか。

Q1

震災から11年目の2022年には、現在と比べてどのような地域になっていると思いますか

震災時に暮らしていた地域の状況は、現在と比べてどうなっているか、1年後の見通しについて聞きました。6つのテーマのうち「良くなっている」が「悪くなっている」を上回ったのは「住まいの問題」だけでした。

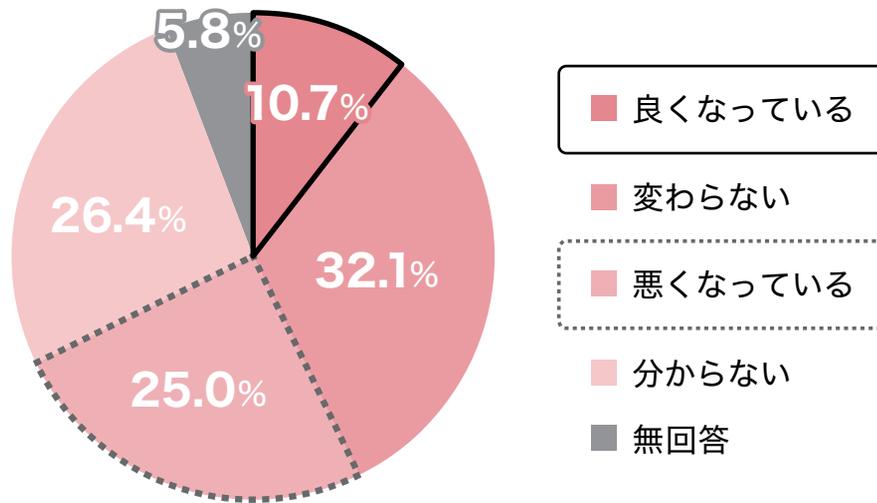
自宅再建など住まいの問題



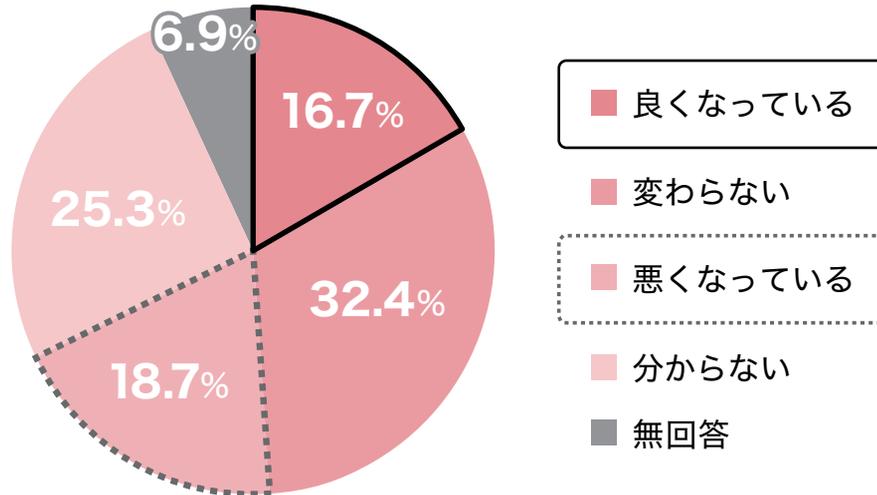
遅れていたかさ上げ工事の完成などから、これから自宅の再建を目指すという被災者もいて、今後も再建が進んでいくことが考えられます。

つづいて、被災地にどう人を呼び込むのか、「観光」と「震災学習」に関連した項目についての見通しです。

観光地としての魅力

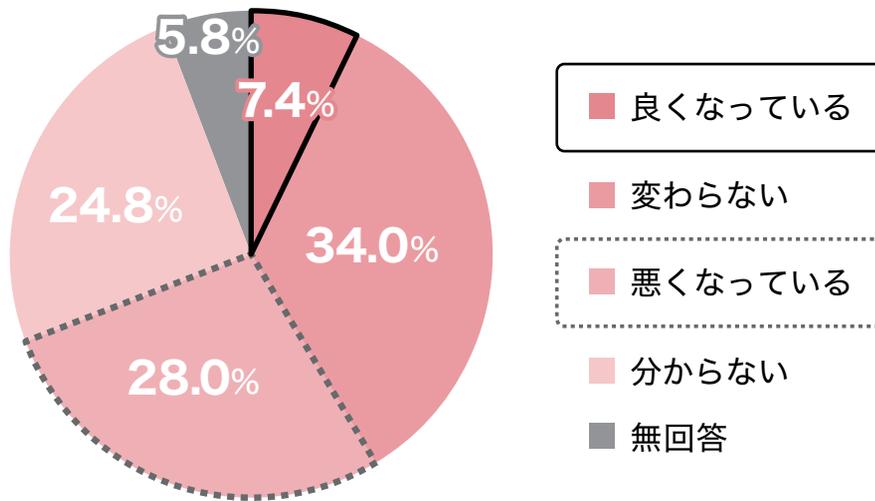


震災学習など、震災の教訓を伝える力



新型コロナウイルスの影響から人を呼び込むことが難しいことも背景として考えられます。さらに厳しい見通しとなったのが、次の「地域経済」と「地域のつながり」についてです。
まずは「地域経済」です。

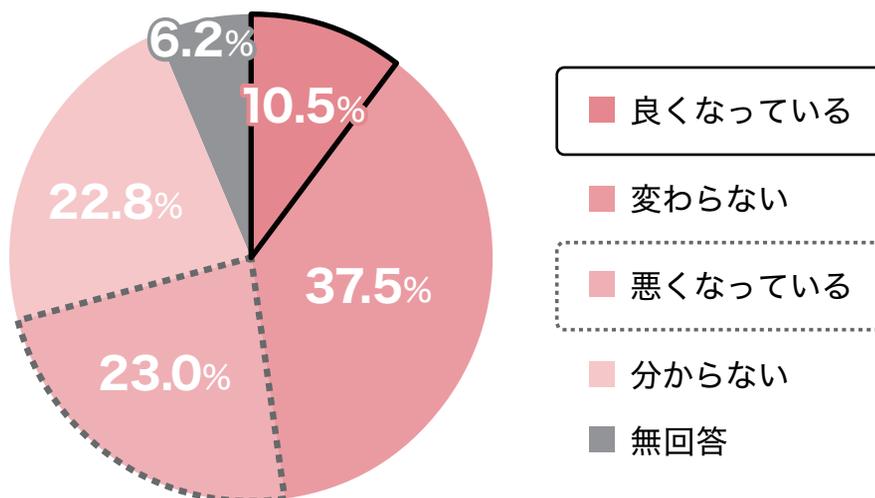
地域経済



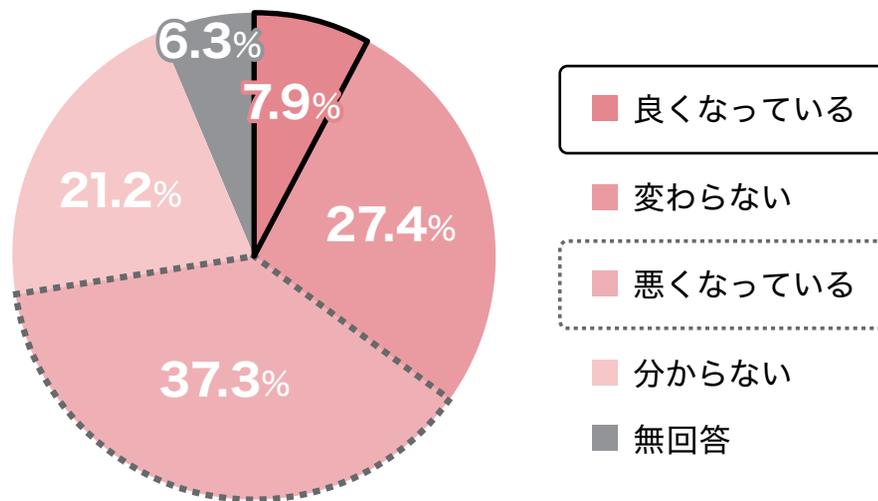
「良くなっている」はわずかに7.4%。「悪くなっている」が28.0%と、経済の復興について良い見通しが立たないと感じている割合が大きくなっています。

つづいて、「地域のつながり」です。「コミュニティ活動」と「伝統・文化の継承」について聞きました。

コミュニティ活動



祭りや行事など、伝統・文化の継承



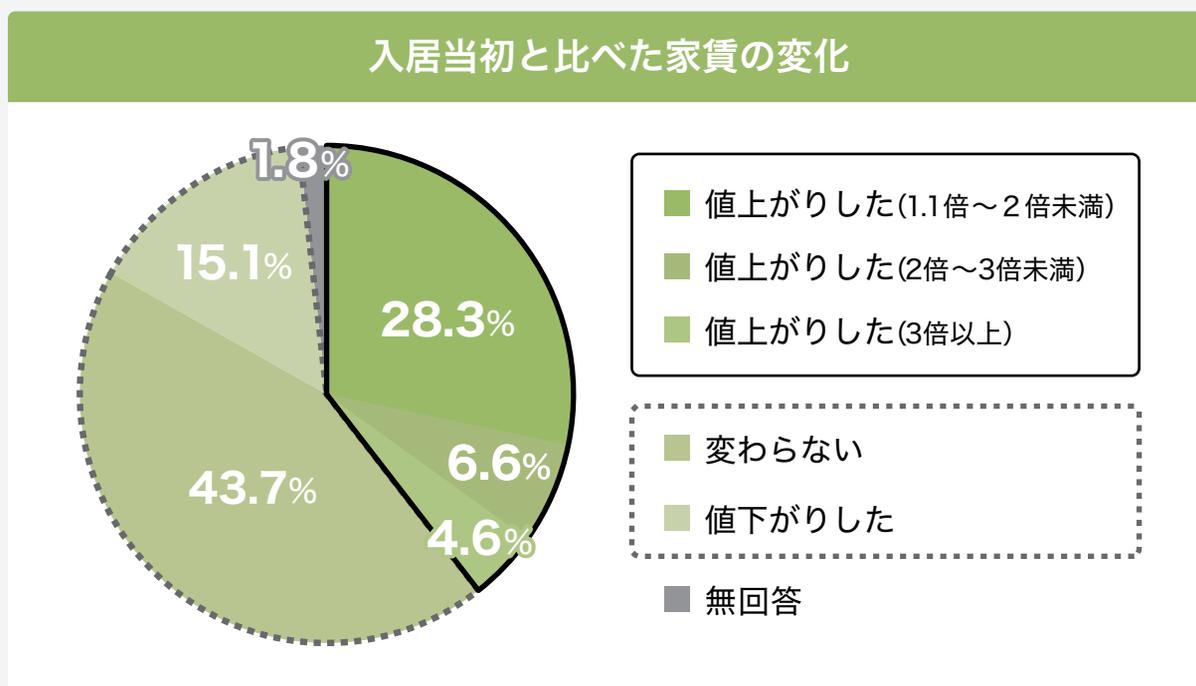
「悪くなっている」の割合が「良くなっている」を大きく上回りました。新型コロナウイルスの影響も背景にあると考えられます。

「地域経済」と「地域のつながり」の復興は、10年がたっても残る大きな課題であることが、アンケートの別の質問でも明らかになっています。こうした課題がこの先どうなるのかについて、被災したかた自身が難しさを感じていることから、経済とコミュニティの支援を継続していくことが重要だといえます。

災害公営住宅の家賃はいま

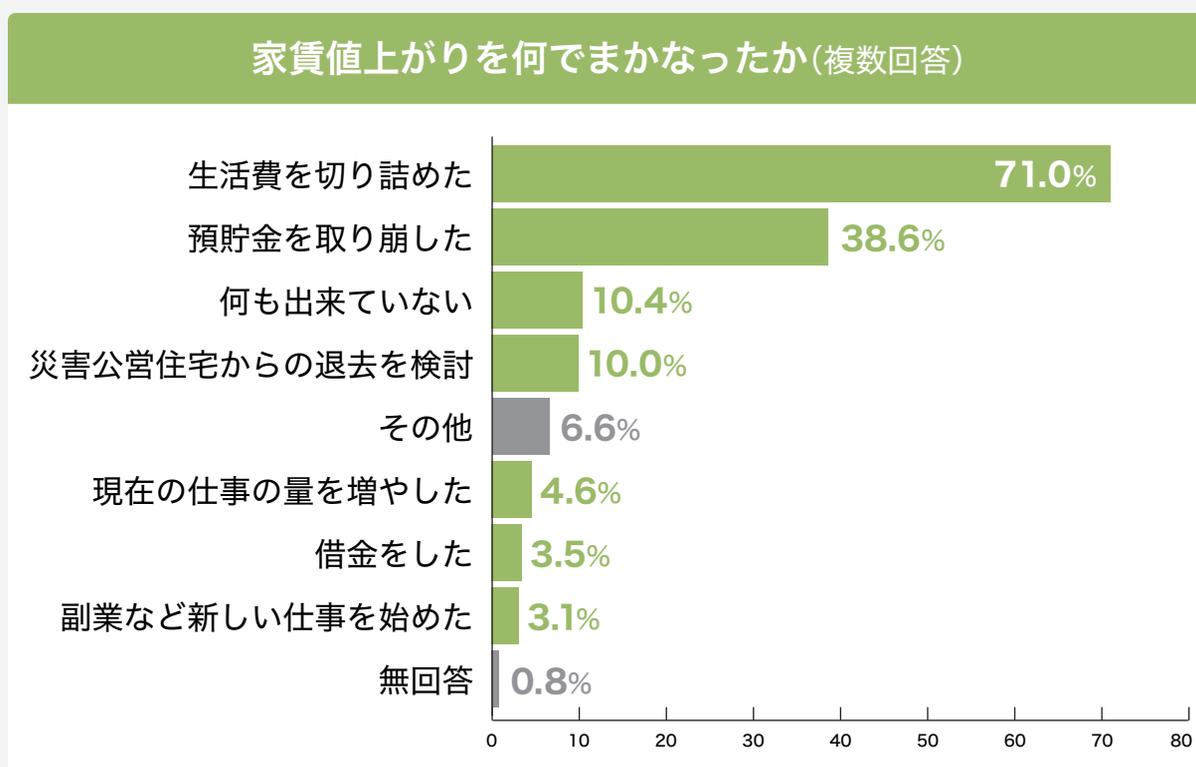
家賃値上がりは4割 食費も切り詰める

家賃は入居当初から比べてどう変わったのでしょうか。



4割の入居者で家賃が値上がりし、2倍以上に増加した人も1割余りという結果となりました。

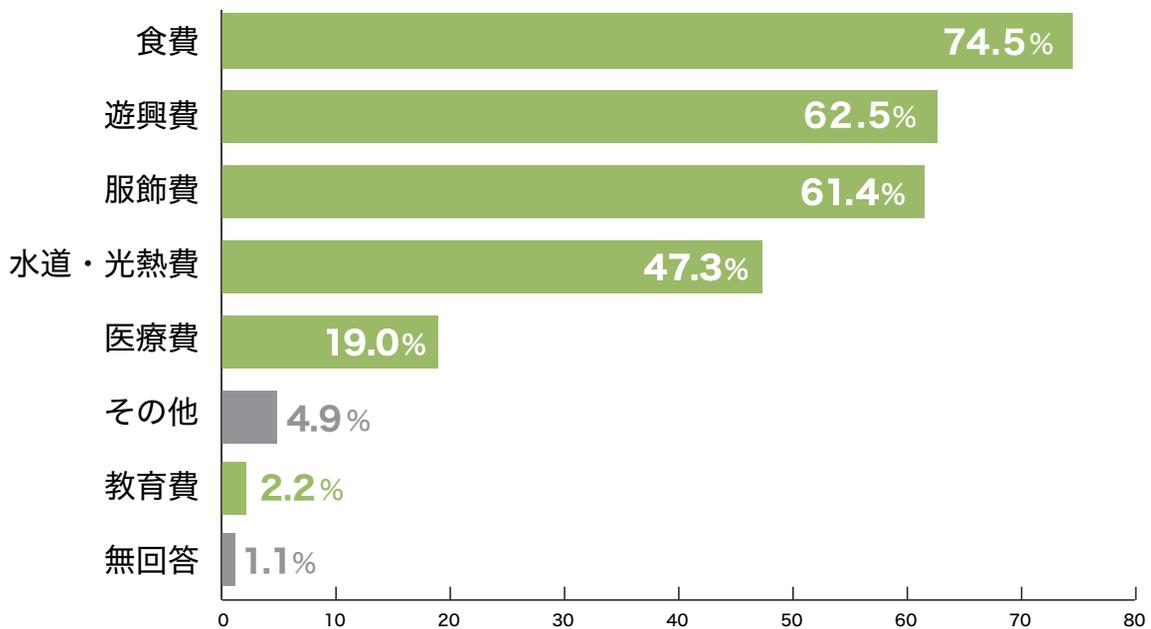
そこで、値上げ分をどのようにまかなっているのかを聞いてみました。



7割以上の方が生活費を切り詰め、4割近くが預貯金を取り崩していました。とても「余裕がある」とはいえなさそうです。

さらに、切り詰めた生活費の中身を聞くと深刻な状況が浮かびました。

生活費 何を切り詰めたか(複数回答)



7割以上が食費を切り詰めていました。

水道・光熱費も5割近く、医療費も2割の人が切り詰めています。

このように、値上がりの影響は決して小さなものでないことが分かります。

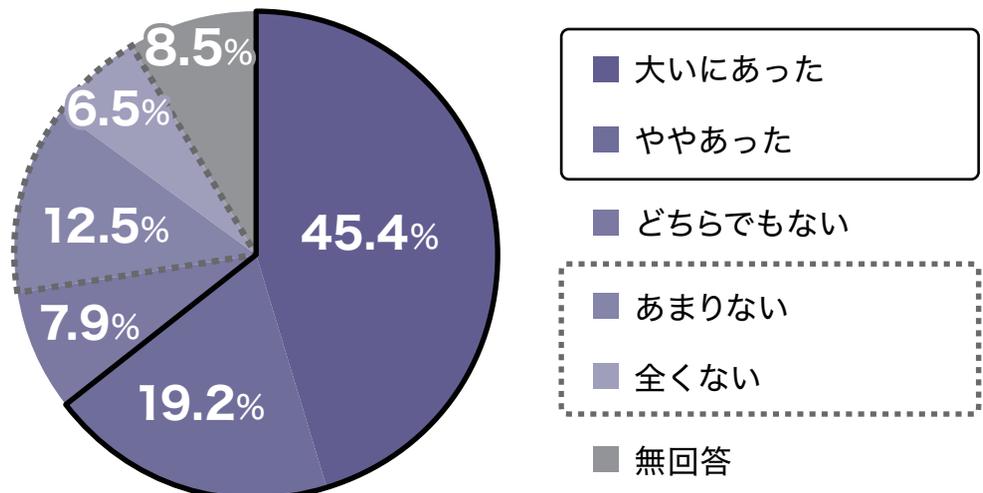
新型コロナの影響は

「新型コロナウイルスによる生活への影響」について聞きました。

Q1

新型コロナウイルスによる皆さんの生活への影響について聞きます。それぞれの項目で悪い影響はありましたか

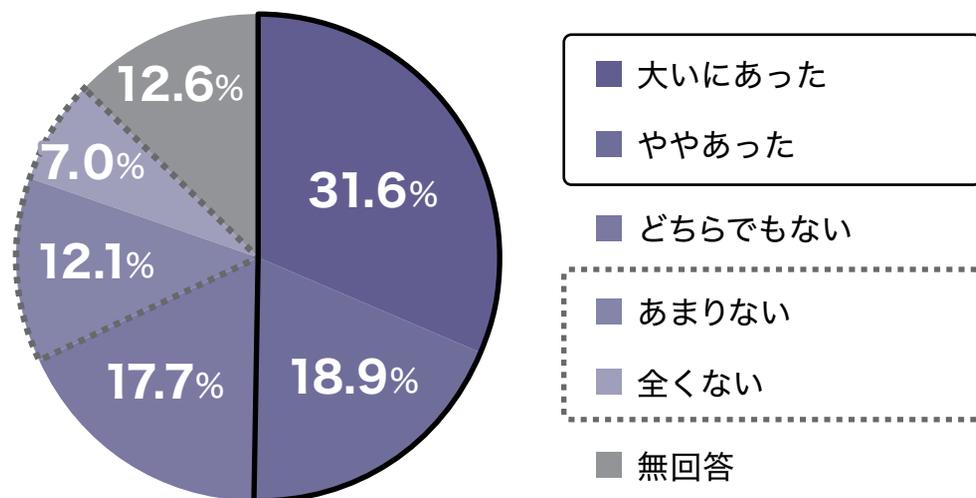
地域の集まりなどの交流



大いにあった・ややあった **64.6%**
 全くない・あまりない **19.0%**

「影響があった」と回答した人の割合が最も高かったのは「地域の集まりなどの交流」でした。「影響があった」という回答が全体の6割を超えていて、深刻な影響が出ていることがわかりました。感染拡大防止のため、人が集まる機会が大幅に減少したことが影響したとみられます。

観光産業の復興

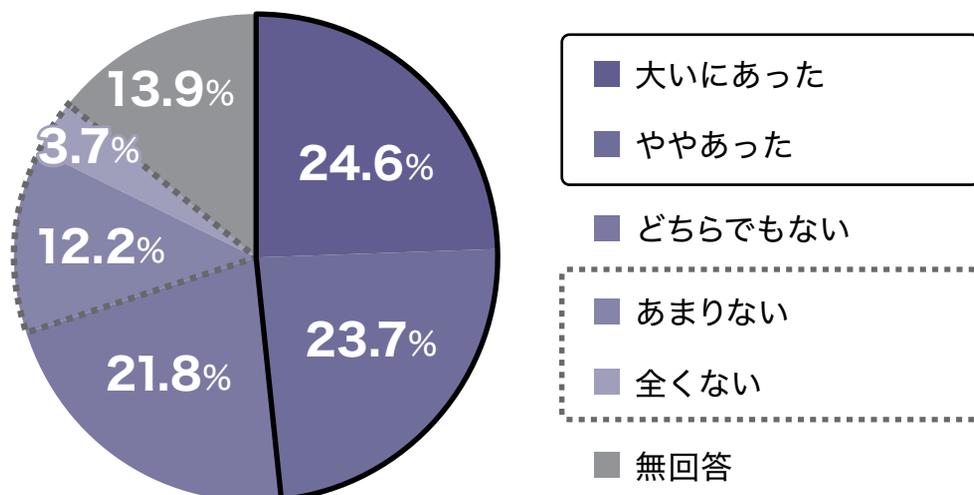


大いにあった・ややあった ————— **50.5%**

全くない・あまりない ————— **19.1%**

次いで、「影響があった」と回答した人の割合が高かったのが「観光産業の復興」でした。
感染拡大防止のため、旅行の自粛などが大きく影響したとみられます。

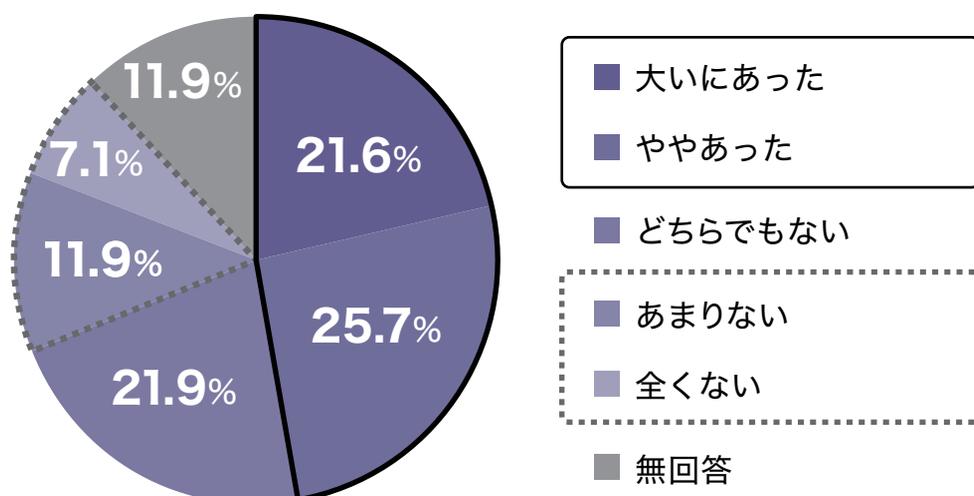
地域経済の復興



大いにあった・ややあった **48.3%**

全くない・あまりない **15.9%**

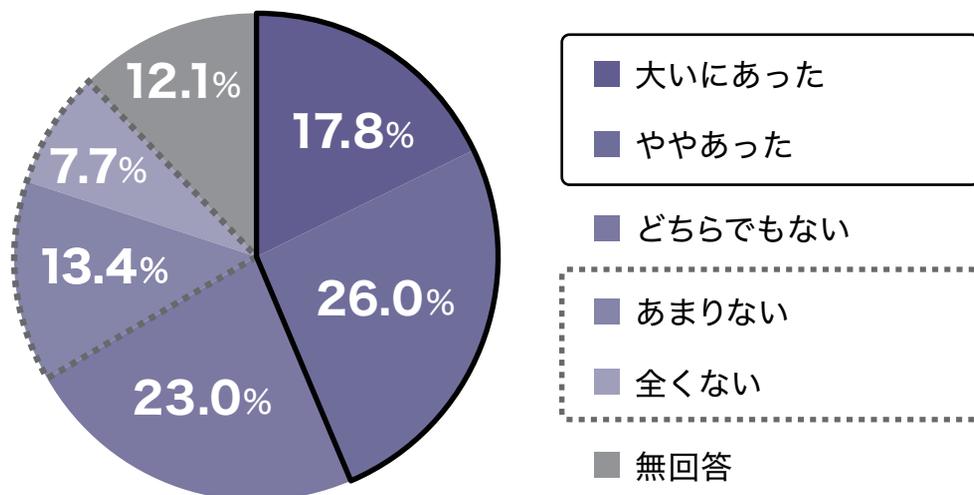
震災の伝承活動



大いにあった・ややあった **47.3%**

全くない・あまりない **19.0%**

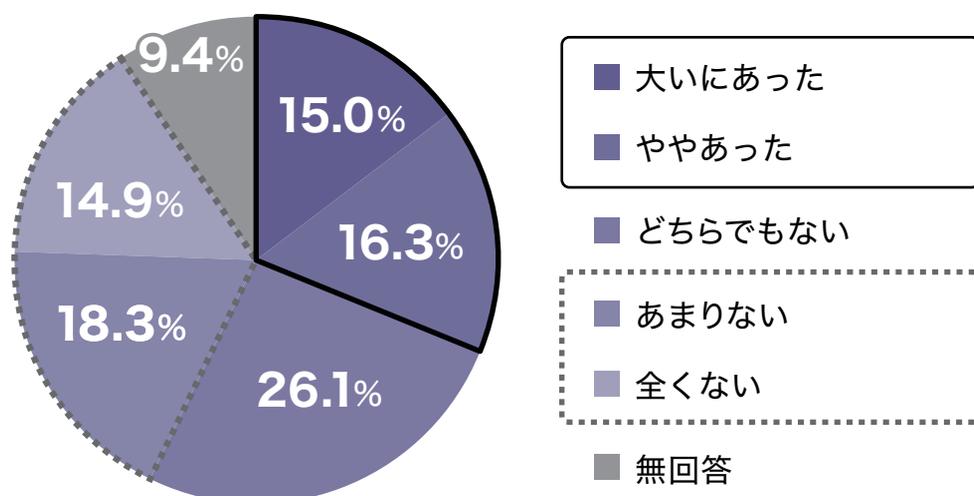
行政やNPOによる見守り活動



大いにあった・ややあった **43.8%**

全くない・あまりない **21.1%**

家計の収入



大いにあった・ややあった **31.3%**

全くない・あまりない **33.2%**

※「家計の収入」が唯一「影響がなかった」が「あった」を上回りましたが、アンケートの回答者の4割ほどが年金生活者であることも影響していると考えられます。

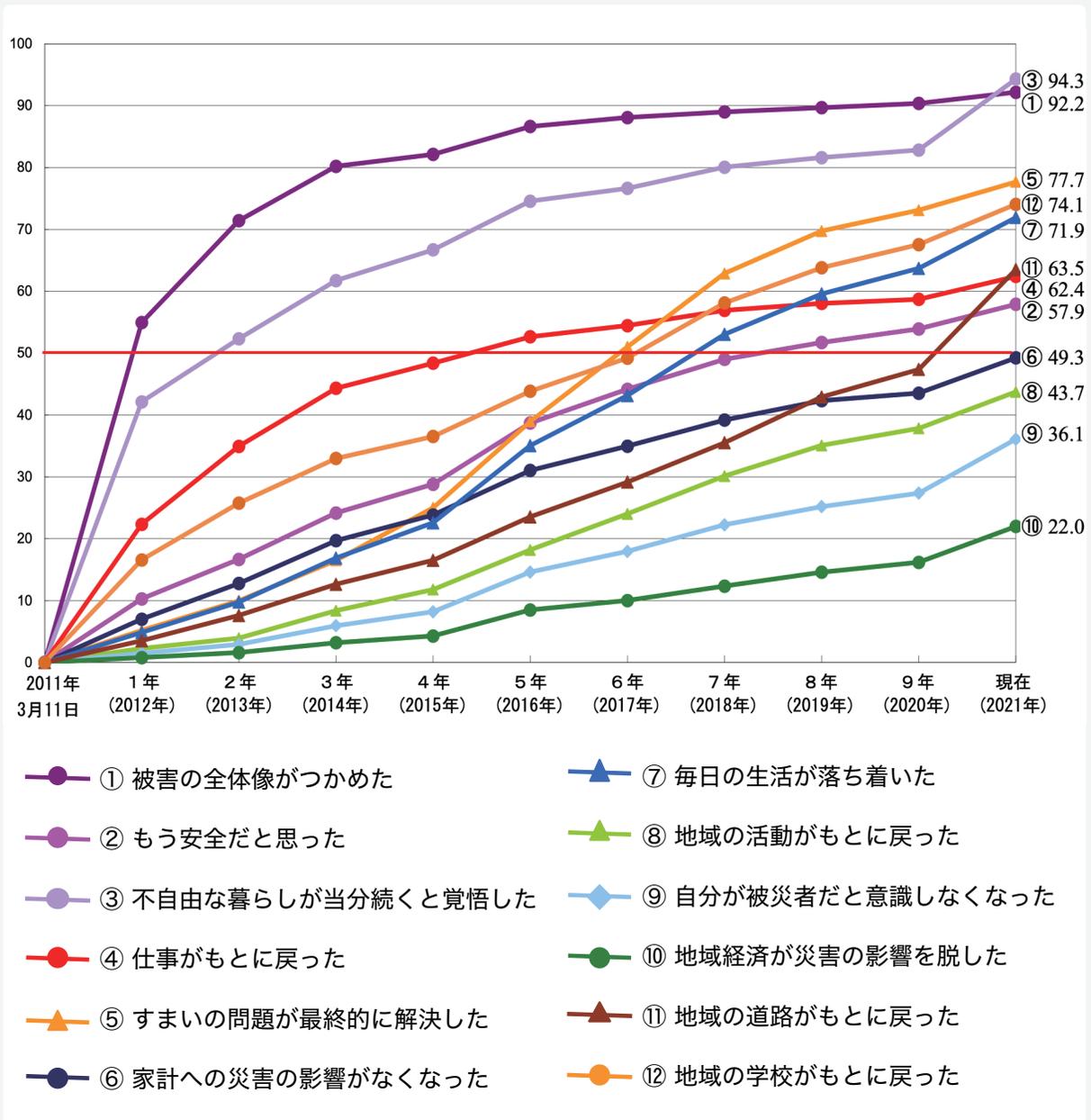
アンケートでは、自由な移動が難しい中で、家族のつながりが薄れたり、ふるさとに戻れないことに対する寂しさや、将来に対する不安の声も寄せられました。

“復興カレンダー” が映し出す 10 年の歩み

“復興” とひとことでいっても、自宅の再建や道路の整備など目に見えるものから、地域のつながりといった目に見えないものまで様々です。

そこで実施したのが、“復興カレンダー” という調査手法です。

震災後の自分の気持ちや暮らしについて、復旧・復興を実感できたのはいつの時点か。「住まい」「仕事」「家計」などについて聞き取りグラフ化します。

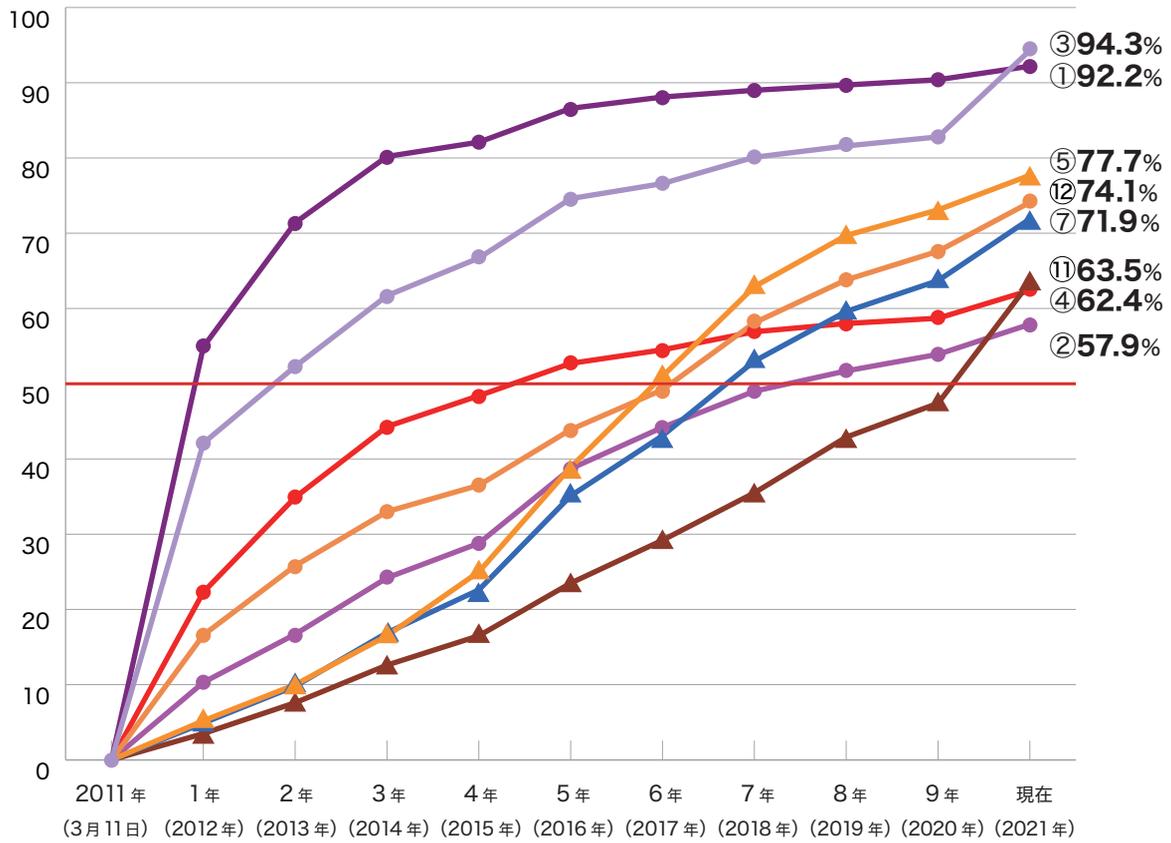


いずれのグラフも右肩上がり、つまり、震災から時間がたつにつれて「そう感じる」人の割合が増えています。

専門家によると、「復興カレンダー」では、50%に達すると、一定程度復興した目安になるとされています。

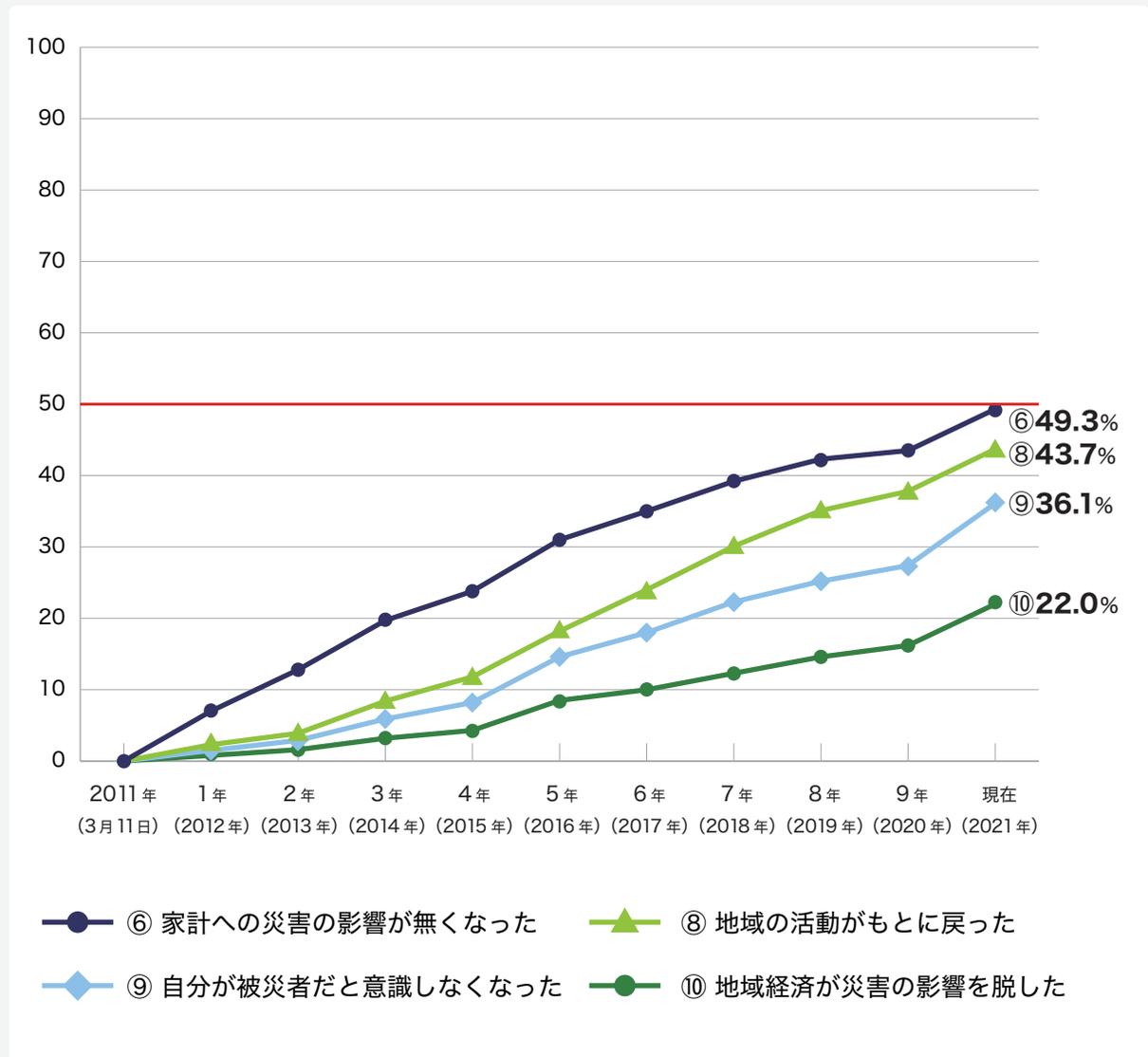
これを元に「復興した」項目と「復興していない」項目を見ていくと、大きな差がありました。

現在までに 50%以上に達したのは、



- ③ 不自由な暮らしが当分続くと覚悟した
- ① 被害の全体像がつかめた
- ⑤ すまいの問題が最終的に解決した
- ⑫ 地域の学校がもとに戻った
- ⑦ 毎日の生活が落ち着いた
- ⑪ 地域の道路がもとに戻った
- ④ 仕事がもとに戻った
- ② もう安全だと思った

一方、現在までに50%に達しなかった項目は、



土地や建物、道路の復興が進んでいる一方で、その上に成り立つ経済活動やコミュニティについては、まだまだ復興を感じられない人が多くいるといえそうです。

そして、⑨「自分が被災者だと意識しなくなった」も4割に届かず、6割以上がいまも被災者だという意識を感じるという結果になりました。

目に見える“復興”だけでなく、経済の活性化や人とのつながりの再生をどう実現するのか。震災から10年のいまも課題になっていることが見えてきました。

当時福島県内に住んでいた方への質問

Q1

国が処分方法を検討している福島第一原発にたまる放射性物質のトリチウムを含む処理水について伺います。どのように処分すべき、または保管すべきと考えますか？

回 答

① 陸上で保管を継続	25.6%
② 海洋放出	30.9%
③ 大気放出	2.9%
④ その他	15.5%
⑤ 無回答	25.0%

Q2

今も避難指示が続く帰還困難区域について、国は一部で除染なしでも避難指示を解除できる仕組みを検討しています。こうした地域について、どうすべきと考えますか？

回 答

① あくまで全域を除染して解除すべき	52.7%
② 除染は限定的でも解除を急ぐべき	21.4%
③ 解除しなくてもよい	12.8%
④ 無回答	13.0%

Q3

当時18歳以下の子どもを対象に行われている学校での一斉検査について手術不要ながんを見つけてしまうデメリットがある指摘があり議論しています。甲状腺検査をどうすべきと考えますか？

回 答

① 学校検査を含め対象者全員の検査をできるだけ継続すべき	46.8%
② 一斉での検査は行わず検査を受けるのは希望者に限定すべき	21.0%
③ 県が実施する形での甲状腺検査は終了すべき	2.9%
④ わからない	14.3%
⑤ 無回答	14.9%

Q4

放射線に不安を感じることがなくなったのは震災後いつですか？

回 答

① 半年	2.3%
② 震災後1年	1.5%
③ 震災後2年	2.7%
④ 震災後3年	2.7%
⑤ 震災後4年	1.7%
⑥ 震災後5年	7.4%
⑦ 震災後6年	2.9%
⑧ 震災後7年	4.4%
⑨ 震災後8年	1.5%
⑩ 震災後9年	1.9%
⑪ 現在も不安だ	51.7%
⑫ 不安に感じたことはない	3.8%
⑬ 覚えていない	3.6%
⑭ 無回答	12.0%

Q5

原発事故による食品の買い控えや観光客の減少などの「福島県への風評被害」の払拭は進んでいると思いますか？

回 答

① そう思う	10.7%
② ややそう思う	30.9%
③ どちらでもない	10.5%
④ あまりそう思わない	25.2%
⑤ そう思わない	14.5%
⑥ 無回答	8.2%

Q6

前の質問で「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた方に聞きます。その理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

回 答

① 国や県などの情報発信が不十分	49.2%
② 消費者の知識や理解不足	63.5%
③ インターネット上の誤解や偏見を招く情報	34.9%
④ 放射線教育の浸透不足	39.7%
⑤ 福島に対する海外の反応	37.6%
⑥ その他	12.2%
⑦ 無回答	5.3%

アンケート回答者の属性

アンケート回答者の属性

調査対象

岩手・宮城・福島などの被災者や原発事故の避難者 約 4,000 人

調査期間

2020年12月 から 2021年1月 まで

調査手法

対面と郵送

回答者数

1805 人

性別

男性：53.4% 女性：45.2% 無回答：1.4%

年代

年代：18 歳～99 歳 平均年齢：69.5 歳

現在の世帯構成

高齢世帯（65歳以上のみ）	41.4%
子育て世帯 （未成年の子どもや孫と同居）	13.1%
1人暮らし	22.8%
それ以外の世帯構成	32.4%
無回答	1.9%

現在住んでいる場所

震災前と同じ場所	18.7%
震災前と同じ市町村	56.9%
県内の別の市町村	18.2%
震災前と別の都道府県	5.2%

震災当時の自宅被害程度

全壊・流出	65.1%
大規模半壊	9.0%
半壊	7.3%
一部損壊	11.5%
被害なし	6.1%
無回答	1.1%

身近な方で震災で亡くなったり、
行方不明になったりした方

親	8.4%
配偶者	5.0%
子ども	2.7%
きょうだい	8.5%
祖父母	1.3%
孫	0.7%
親戚	43.0%
友人・知人	45.4%
いない	24.5%
無回答	2.5%

主な職業

給与生活者	14.0%
自営業	15.7%
有業主婦／主夫 （臨時社員・パートなど）	6.3%
専業主婦／主夫	5.5%
年金生活者	41.9%
学生	—
無職	13.2%
その他	2.6%
無回答	0.8%

NHK

ご協力ありがとうございました